

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 2 0 8 6 0 1
起案日	平成 1 6 年 9 月 3 0 日
特許庁審査官	酒井 恭信 9 1 9 0 5 B 0 0
特許出願人代理人	佐藤 一雄 (外 3 名) 様
適用条文	第 2 9 条第 2 項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記

(引用文献等については引用文献等一覧参照)

【請求項 1 - 4 に対して】 引用文献 1, 2, 3

引用文献 1 には「マイクロコンピュータにおいて、外部から供給された制御信号に基づき内部信号の選択を行う選択器 (9 0, 9 4)を設け、選択器 (9 0) で選択した内部信号をエンコードして選択器 (9 4) に入力するとともに、選択器 (9 4) で選択された内部信号を外部端子から出力する」ことが開示されている。

引用文献 2 には「プロセッサと複数の機能モジュールとを有するマイクロコンピュータにおいて、プロセッサと機能モジュール又は機能モジュール間でのみ入出力されて観測の対象となる複数の内部信号を受け、選択信号に従って複数の内部信号の中から一部の信号を選択して外部に出力する選択手段を設ける」ことが開示されている。(引用文献 2 の例えば段落【0 0 1 7】の記載を、参照されたい。)

また、引用文献 3 (例えば第 1 頁参照) に記載されているように「内部信号選択回路において、プロセッサからの選択信号に基づいて内部信号の選択を行う」構成も知られている。

なお、「観測対象をどのような内部信号とするか」、「選択手段をいくつ設けるか」等は、当業者が適宜決め得たことである。

【請求項5に対して】 引用文献1, 2, 3, 4

引用文献1－3については、【請求項1－4に対して】での指摘を参照。

引用文献4に記載されているように、「マイクロプロセッサにおいて、内部のデバッグ情報をパラレル・シリアル変換して外部に出力する」のは周知である。

また、信号をシリアル・パラレル変換して出力したり、信号を所定間隔で間引いて出力する構成にするのも、当業者にとって格別困難なことではない。

引用文献等一覧

1. 特開平08－022400号公報
2. 特開平06－214819号公報
3. 特開平09－190361号公報
4. 特開平05－241880号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野

I P C 第 7 版 G 0 6 F 1 5 / 7 8 G 0 6 F 1 1 / 2 2

・先行技術文献

a. 特開平02－146637号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。